

最短のハーフマラソン

－ひたむきに何かに打ち込む人間の美しさを伝える－

- 1 学 年 第7学年〔中期〕
2 主題名 生きる喜び〔3－（3）〕

3 ねらい

病魔に襲われながらも走ることへの情熱を失わない岡さんの生き方について考えることで、人が生きていくことの意味や喜びについて理解を深め、よりよい生き方を追い求めていこうとする心情を育てる。

- 4 資料名 「最短のハーフマラソン」

5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 呉で開催されるマラソン大会についてふれる。 ○ 「呉とびしまマラソン」を知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知っている。 ・ 知っている人が参加した。 	○ 大会の様子が分かる写真やポスターを提示し、資料への興味付けを行う。
展 開	2 資料「最短のハーフマラソン」を読んで話し合う。 ○ 病弱な岡さんはどんな気持ちでレースに挑戦しているのでしょうか。 ○ 完走は絶対無理だと分かっていたのに、岡さんはなぜハーフマラソンの大会にやってきたのでしょうか。 ○ 2 km地点でリタイアしたあと遠くを見つめていた岡さんはどんなことを考えていたのでしょうか。 ◎ 岡さんの生き方について、考えたことや感じたことを発表しましょう。 3 自分たちの生活を振り返って話し合う。 ○ 苦しさを乗り越えて頑張った体験はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完走したい。 ・ 自分の限界に挑戦したい。 ・ 走る仲間との再会を楽しみにしている。 ・ 走ることが新鮮で楽しい。 ・ たとえ無理でも約束を果たしたいと思ったから。 ・ 病気との闘いに負けないために、自分の気持ちにけじめを付けたかったから。 ・ 今はこれが限界だ。今後は病気の治療に専念しよう。 ・ 必ず病気を治して、またこの大会に参加する。そのときは必ず完走するぞ。 ・ 自分は岡さんのように精一杯生きているだろうか。 ・ 岡さんは強い。 ・ 限界に挑戦し続けるところがかっこいい。 ・ 部活の練習で、苦しいトレーニングを最後までやり抜いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼い頃から病弱で運動ができなかった岡さんの心情について考えさせる。 ○ 「けじめをつけた」という岡さんの言葉にこめられた思いについて考えさせる。 ○ 「私は、岡さんの何を美しいと感じたのでしょうか。」という補助発問を準備し、思考を深めさせる。 ○ 学校行事や部活動での体験を想起させながら考えさせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一生懸命生きている人ってかっこいいなあ。 	○ 「心のノート」(p.80)を活用してまとめさせるとよい。

6 授業の概要

(1) 主題について

日々の生活の中で「こうありたい。」という思いをもっているながらも、なかなか思うようにいかないこともある。しかし、それらを克服していく人間の素晴らしさを感じ取らせることで、力強く前向きによりよく生きていこうとする意欲をもたせることができるものと思われる。

そこで、本資料による学習を通して、人間の素晴らしさや夢や希望を求めて誇りある生き方をしていこうとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 実施の時期

導入で取り上げている「とびしまマラソン」が開催される時期（2月～3月）に扱うとよい。近年のマラソンブームで大きな市民マラソン大会も各地で開催されており、それらの開催時期に合わせるのもよい。

イ 臨場感を感じ取らせる

本資料は、実際にあつたいくつかの出来事を改変し、組み合わせて作成したものではあるが、資料に表現されている臨場感をしっかりと感じ取らせることでねらいにせまらせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

呉で開催される市民マラソン大会を提示し、興味付けを行うことで資料の冒頭部分の記述につなげたい。

イ 岡さんの心情を受けとめる

資料が持っている、実話のような臨場感を生かしながら、岡さんの心情を受けとめさせていきたい。走り始めた頃の「苦しさ」さえも新鮮で楽しいと感じている岡さんの心情、病をおしてハーフマラソンのスタートラインに立った岡さんの心情、レース後、静かに遠くを見つめている岡さんの心情等を丁寧に感じ取らせることで、人が生きていくことの意味や喜びについて考えさせたい。

(阿賀中学校 平田洋一)